

私立大学研究ブランディング事業 平成30年度の進捗状況

学校法人番号	291002	学校法人名	帝塚山学園		
大学名	帝塚山大学				
事業名	「帝塚山プラットフォーム」の構築による学際的「奈良学」研究の推進				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	3390人
参画組織	人文科学研究科・心理科学研究科・文学部・経済学部・経営学部・法学部・心理学部・現代生活学部				
事業概要	<p>本事業では、奈良県全体を研究のフィールドとする本学独自の「奈良まるごとキャンパス®」構想にもとづき、地域の拠点として「帝塚山プラットフォーム」を構築し、学際的な「奈良学」研究を推進する。「奈良学」は、奈良を研究対象とし、日本や世界における奈良の位置づけを明らかにするものである。産官学との連携による「奈良学」研究を通して地域の活性化や創生に取り組むことで、地域の拠点大学としてのブランドを確立する。</p>				
①事業目的	<p>本事業の目的は、奈良県全体を研究のフィールドとする本学独自の「奈良まるごとキャンパス®」構想にもとづき「帝塚山プラットフォーム」を構築して学際的な「奈良学」研究を推進することで、奈良に存在する様々な文化資産や観光資源を再発見し、その成果を広く社会に発信していく取り組みを本学と地域が協働して行うことにより、地域の活性化と創生に結び付けることである。さらに、本取り組みを通じて、奈良県に立地し、地域の振興や情報発信の拠点としての重責を担う帝塚山大学の役割や存在をより明確なものとし、地域における独自性を本学の特色として打ち出すことで、本学のブランドの確立に結び付けていくことをめざす。</p>				
②平成30年度の実施 目標及び実施計画	研究活動	<p>【目標】3領域の「実証」研究、「実践・発信」を本格実施する。 【指標】個々の研究課題で設定した指標にもとづき、調査報告書、映像記録、開発商品等の成果物を提示し、積極的に公開。</p>			<p>平成30年度</p> <p>「帝塚山プラットフォーム」事業の本格的な推進 外部評価委員会による年次評価</p>
	ブランディング戦略	<p>【目標】各ステークホルダーの特性に応じて情報を精査・発信し、本学のめざす「実学の帝塚山大学」、「奈良学の帝塚山大学」のイメージ浸透を図る。 【指標】各取り組みの実績総括</p>			
	研究活動	<p>○文化財・祭事 ・聖徳太子関連遺跡：教育委員会等に届出、試掘・確認調査実施 ・正倉院宝物研究：内蒙古博物院と連携し、遼代皇帝陵の壁画及び出土品を映像記録化・分析。正倉院宝物との関連性の明確化 ・奈良仏像史研究：ガラス乾板の整理、研究対象の焦点化、分析 ○食文化・伝統産業 ・大和野菜の食物学的研究：他の品種の食物学的分析 ・奈良晒研究：多面的な調査研究の遂行 ○地域・コミュニティ ・五條市歴史学的研究：関連資料の収集、現地調査の実施 ・地域の生活文化研究：民俗資料の収集、聞き取り調査の実施 ○奈良学研究を生かした地域活性化人材育成プログラムの実践 ○文化財デザイン商品、大和野菜商品、奈良晒の商品開発 ○産業遺産である五新鉄道等を活用した観光イベント計画・実施 ○奈良地域の生活史について小中学校や地域における教育活動実践 【測定方法】 ○事前に設定した評価指標にもとづき、奈良学研究推進委員会が事後評価を行い、効果を検証し、次の研究計画へ反映させる。</p>			
ブランディング戦略	<p>○図書館において「奈良学」に関する特別展示を開催する。 ○附属博物館において「奈良学」に関する特別展示を開催する。 ○デジタルアーカイブの構築に着手する。 ○「奈良学」に関する公開講座（連続4回）を実施する。 ○「奈良学ブックレット」を刊行する。 ○「大学案内」において実学特集ページを組む。 【測定方法】事前に設定した評価指標にもとづき、広報委員会により、事後評価による効果の検証を行い、次年度の取り組みへ反映させる。</p>				

<p>③平成30年度の事業成果</p>	<p>【研究活動】</p> <p>○文化財・祭事 <聖徳太子関連遺跡> 法隆寺創建瓦を生産した瓦窯(北垣内窯)の所在が推定される奈良県生駒郡三郷町勢野地区の現地踏査を実施した。また、三郷町と共催で講演会、展示会、遺跡ウォークを実施した。さらに、中宮寺出土瓦、斑鳩を中心とした生駒地域の近世瓦の調査を実施した。</p> <p><正倉院宝物研究> ポスト天平文化の敷衍をテーマに10世紀の遼時代の文化財を内モンゴル自治区フフホト市の内モンゴル博物院及び内モンゴル文物考古研究所で調査し、その成果を大和文華館(奈良市)にて報告した。平安文化と遼時代が唐草文様を通じ共通の文化圏を築いていたことが具体例から報告され注目された。</p> <p><奈良仏像史研究> 現地調査を継続し、初期的な調査を終了した。現在は高精細画像の撮影の途上段階にある。奈良学総合文化研究所主催の公開講座で研究成果を発表し、奈良学総合文化研究所紀要「奈良学研究」第21号に論文を発表した。「永野鹿鳴荘ガラス乾板資料調査概報(2)」、「同(3)」を刊行した。</p> <p>○食文化・伝統産業 <大和野菜の食物学的研究> 昨年度に試作をした大和野菜「大和真菜」を取り入れた「殿様弁当」を本学キャンパスで開催した「あかね祭」や奈良県大和郡山市で開催された「第7回大和郡山 良い食品博覧会」にて販売した。「ひもとうがらし」、「片平あかね」、「宇陀金ごぼう」、「大和まな」などの分析を行い、大和野菜を使ったメニューを検討した。</p> <p><奈良晒研究> 「履修証明プログラム」として本学が所蔵する大和機を使用した織物講座を開講し、奈良学研究を生かした地域活性化人材の育成に取り組んだ(応用編6名修了、初級編8名修了)。また、受講生の制作した作品の展示会(「あかね祭」、「ギャラリー-GM-1」)を開催し、学内外に広く公開した。</p> <p>○地域・コミュニティ <五條市歴史学的研究> 昨年度撮影した五新線および新町の映像を再編集し、市立五條文化博物館と五條市観光交流センターで一般公開した。京都鉄道博物館で開催されたイベントにおいても同映像を上映した。</p> <p><地域の生活文化研究> 奈良県立図書情報館との共催展示「奈良学との出会いⅠ 山里に行き交う職人たち 一 天理・福住永井清繁画帳から一」を実施した。西部地域に位置する斑鳩町神南において民俗調査を実施した。「奈良山里の生活図誌」(帝塚山大学出版会)を刊行した。</p> <p><奈良県北西部歴史文化研究> 奈良県生駒市(富雄川左岸地域)や奈良県斑鳩町神南地区に出向き現地調査を実施した。奈良学総合文化研究所所蔵の古文書を附属博物館において展示した(「奈良学とのあい-帝塚山大学所蔵の古文書-」展)。</p> <p>【ブランディング戦略】</p> <p>○奈良学シンポジウムとして、「興福寺中金堂落慶記念「祈りと復興」、東近江市能登川博物館・埋蔵文化財センター・附属博物館との共催で「東近江の古代寺院の源流を探る」を実施した。</p> <p>○図書館において特別展示「奈良学の軌跡展-萌芽期から黎明期、そして発展へ-」を開催した。</p> <p>○附属博物館において企画展示「奈良学とのあい-帝塚山大学所蔵の古文書-」展を開催した。</p> <p>○<正倉院宝物研究>につながる成果として、シルクロード都市であるウズベキスタン・サマルカンド市カフィル・カラ城の発掘調査の報告会「シルクロード 黄金文化の道」を開催した。</p> <p>○永野鹿鳴荘ガラス乾板のデジタルアーカイブの構築に着手した。</p> <p>○奈良学総合文化研究所と公開講座「奈良学への招待」(5回)、「名品・名作誕生」(4回)を実施した。</p> <p>○奈良学ブックレット「奈良学叢書2 奈良学の現在」(帝塚山大学出版会)を刊行した。</p> <p>○「大学案内2019」において実学特集ページを、大学広報誌「大学通信帝塚山」でブランディング事業の特集ページを設け、「2018年度版実学パンフレット(事例集)」を発行した。</p>
<p>④平成30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>昨年度に引き続き、本事業を推進するため、奈良学研究推進室を設置し、推進員2名を配置する等、実施体制を継続した。研究課題として設定した7つの取り組みに「奈良県北西部歴史文化研究」を加えた8つの取り組みを実施した。いずれの取り組みも期中での進捗を確認しつつ推進し、概ね所期の目的は達成しており、次年度以降も設定した目標や指標を実現するため、事業全体のPDCAを回していくことを確認した。</p> <p>(外部評価)</p> <p>3月に、平成30年度の外部評価委員会を開催し、3名の外部評価委員(奈良教育大学学長・奈良県明日香村村長・生駒市観光協会会長)から、それぞれの立場や視点からの評価を受けた。外部評価の主な内容は次のとおりであり、次年度の活動に活用することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示や公開講座の補助をしていた学生たちは、授業とは違う何らかの力を感じていると思う。そういったことに対して、大学は適切な評価をするべき。学部間の融合型のプロジェクトにも期待される。 ・若年層だけでなく、その他の年齢層の第二の人生を担う大学として、角度を変えた取組も良い。 ・「奈良学」における「過去と未来」、「奈良と世界」という指標のうえで、最終的に何を指すのかというものを明確にする必要がある。奈良学を世界との関係を含めた上で、奈良との距離感を測って、最終的に未来の奈良がどうなるのかというところ、バランスの議論をもう少し整理する必要があるのではないか。
<p>⑤平成30年度の補助金の使用状況</p>	<p>学際的「奈良学」研究推進のための機器・備品および基盤となる資料等の購入費、事業統括・研究支援のための推進員人件費、研究出張・学術報告会等の国内旅費、本事業に関するwebサイト構築及びパンフレット作成費、研究協力者等の報酬謝金、学術報告会の広告掲出料、運営費、案内チラシ・調査概報等の印刷製本費、その他経費(通信費・消耗品・雑費)等</p>